

# 車いすの選び方①～車いす選びのステップ

## ① 車いすの種類を選ぶ。

まず、誰が操作するかを決めましょう。

### 利用者本人が操作する

#### 自走式



後輪が大きめ。  
利用者本人が動かす。

#### 電動車イス



操作レバーを使って動かす。  
介助者用操作盤が付いたタイプもある。

#### 電動カート



ハンドル操作で動かす。  
歩行者扱いのため、免許不要。

### 介助者が操作する

#### 介助式



後輪が小さめ。  
ご利用者ではなく、介助者が操作する。  
自走式より軽い。

#### 電動補助



電動補助機能付きで、介助者が軽い力で操作できる。  
坂道でもラク。

## ② 使用状況に合わせて、特長・機能を選ぶ。

### 軽量

持ち運び簡単で、電車などにも持ち込みやすい。

### ティルト

背角度を一定に保ったまま座面を後方に倒すことができ、座位保持が困難な人でも安定した座位を保てる。

### モジュール

利用する方に合わせて、各部のサイズを調整可能。

### リクライニング

背部を後方に倒すことができるので、長時間の利用の際に休息姿勢をとったり、除圧することが可能。

### 6輪

小回りが利くので、室内の狭い廊下などで使いやすい。

### 歩行車兼用

押手の位置を変更することで、歩行車として利用可能。

## ③ 付属品を選ぶ。

ニーズに合わせて付属品を選びましょう。

### クッション



体重を優しく支え、長時間の座位保持を助ける。

### 背もたれ



車いすと腰や背中との隙間を埋め、座位をサポート。

### サポートセット



心地よく安定した姿勢を維持するクッションと背もたれのセット。

# 車いすの選び方②～車いす選びのポイント

## 車いす各部の名称と機能

<p><b>ひじ掛け高さ調整</b> ひじの高さの調整により、安定した座位を保てます。車イス用クッション使用時に便利です。</p> <p><b>ひじ掛けはね上げ</b> ひじ掛け（アームレスト）のはね上げが可能です。移乗の際に便利です。</p> <p><b>ひじ掛け着脱</b> ひじ掛け（アームレスト）の着脱が可能です。移乗の際に便利です。</p>	<p><b>ヘッドレスト角度調整</b> ヘッドレスト角度調整が可能です。</p> <p><b>ヘッドレスト高さ調整</b> ヘッドレスト高さ調整が可能です。</p> <p><b>ヘッドレスト着脱</b> ヘッドレストの取り外しが可能です。よりコンパクトに収納できます。</p>
<p><b>座シート張り調整</b> 座シートの張り調整により、安定した座位を保てます。骨突出の方に適しています。</p> <p><b>シート奥行調整</b> シート奥行調整により、安定した座位を保てます。</p>	<p><b>介護ブレーキ</b> 介助者用のブレーキ。</p> <p><b>押し手高さ調整</b> 押し手部の高さの調整により、介助者の負担を軽減します。</p>
<p><b>スイングアウト</b> スイングアウトにより、車イスの乗り降りが便利です。介助者の負担を軽減します。</p> <p><b>足置き着脱</b> フットレスト着脱可能。移乗の際に便利です。取り外すことにより、足潰ぎをされる方に適しています。</p> <p><b>脚部エレベーター式</b> 脚部の角度を調整できます。膝関節が曲がらない方に適しています。</p>	<p><b>背折れ</b> 背部の折りたたみが可能で、コンパクトに収納できます。</p> <p><b>背角度調整</b> 背部の角度調整により、安定した座位を保てます。</p> <p><b>背シート張り調整</b> 背シートの張り調整により、安定した座位を保てます。骨突出の方に適しています。</p>
<p><b>手元ブレーキ</b> ご利用者のブレーキ。</p>	<p><b>足踏みブレーキ</b> 介助者がレバーを足で踏むだけで簡単にブレーキがかかります。</p>
	<p><b>ノーパンクタイヤ</b> 空気を入れる必要がありません。</p> <p><b>振動軽減キャスター</b> クッション入りの車輪が振動を抑えるので、乗り心地に優れています。</p>

## 車いすを選ぶときのチェックポイント

背もたれの高さは、肩こう骨の下ぐらいに。

肘掛けの位置は、肘を無理なく曲げた高さに。

シートの高さは、膝下の長さに。

シートの幅は、お尻の幅より5cmほど広めに。

シートの奥行は、背もたれにお尻を付けて座ったとき、膝の内側より少し短くなるぐらいに。